

## 第96回運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成27年7月30日（木）14:00～16:00
2. 場 所：年金積立金管理運用独立行政法人 大会議室
3. 参加者：・米澤委員長 ・堀江委員長代理 ・大野委員 ・佐藤委員  
・清水委員 ・菅家委員 ・武田委員

### 4. 議事要旨

- (1)「委託調査研究及び大学共同研究の概要」について  
質疑等の概要は以下のとおりである。

事務局 ESG投資については、国際的にも長期投資家の間で中心的なテーマの一つになっており、今回の調査研究も材料としつつ、GP I Fとして何を、どういう形でやるのが望ましいか、国連のPRIへの署名も含め、前向きに検討していきたいと考えている。

委員 ESGとは、リターンを目的としたものではなくて、社会的な価値として促進すべきというのがもともとの考え方であり、そこをきちんと踏まえた対応というのは、公的年金を預かっているGP I Fとしては、当然考慮しなければならぬ重要事項だと思う。この研究成果に沿った対応をお願いしたい。

委員 ESGに関しては、スチュワードシップ・コードでどのように扱われているのか。

委員 考慮要素の一つである。

事務局 スチュワードシップ・コードの中身を見ると、エンゲージメントでチェックするものとしてESGの観点が入っている。

ただし、実際の投資については、インデックスの選定等テクニカルに難しいところもあるので、例えば国連PRIのようなネットワークが情報収集に活用できるのではないかと考えている。

委員 GP I Fが国連のPRIに署名するというのであれば、間接的にアセットマネジャーに対するインパクトが非常に大きく、リターンに関する議論とは切り分けてでも、こちらは前向きに検討していただきたいと思っている。

委員 大学共同研究は、公表されるのか。

事務局 資料2を公表する。各テーマごとに共同研究に携わっていただいた大学の先生に論文を出していただいている。

委員 RFIについては例えば、公募研究を出すとか、大学、大学院対象のコンテスト研究のようなものを出すといった工夫も考えられると思う。

事務局 共同研究をPFI、RFPで行うということについては、我々には思いつかないようなアイデアが出てくる可能性があることなどを考慮して実施することにし

た。

委員 調査研究の対象項目が多岐にわたるが、何から手をつけ始めるのか。

事務局 複数の委託先を選択しており、同時並行で進めていけると考えている。

委員 研究結果については、まとまった段階ではなくても、途中経過も報告いただきたい。

(2) 「平成二十七年度のキャッシュアウトへの対応と資産構成割合の変更に係る取組み状況」について

質疑等はなかった。

(3) 「リスク管理状況等の報告（平成27年5月）」について

質疑等はなかった。

以上